

インフォメーション・コーナー

会 告

○2019年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて (P)	WEB 事前参加登録 6月1日～7月31日	82
○2019年度農業農村工学会大会講演会（東京大会）の企業展示および広告掲載申込みについて		
申込締切 6月28日		83
○2019年度「研究グループ」の助成希望者募集について	申請締切 6月28日	84
○2019年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について	申請締切 9月13日	84
○2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について（再）	申請締切 4月12日	85
○「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い		85
○消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について	4月1日から	86
○PWE誌年間購読料の値下げについて	4月1日から	86
○会費等の「振込手数料」のご送金者（会員様等）負担について	4月1日から	86
○「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ（再）		86
○学生会員入会時の特典について		86
○今年もやります！ こりゃ映像！ 2019—ミニ動画コンテスト—（再）	応募締切 7月31日	87
○「水土の知（農業農村工学会誌）」読者の氏名公表とご協力のお礼		87
○「農業農村工学会論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼		88
○「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について		89
○学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!		89
○2020年の学会誌表紙写真の募集	春季締切 6月30日	89
○「水土の知（農業農村工学会誌）」への投稿お待ちしております！		90
○国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと		
2018年7月から2020年6月までの編集事務局について		91
○第76回京都支部研究発表会の開催について（第1報） (P)	発表申込締切 6月30日	92
○2019年度九州沖縄支部大会の開催について（第1報） (P)	開催地：大分市	93
農業農村工学会論文集内容紹介		94
農業農村工学会技術者継続教育機構認定プログラム（一般参加可）一覧		95
受入れ図書		96
学会記事		96

会員のみなさまへ

例年、4月は転勤・卒業などで多くの会員の方々が異動されます。

引き続き学会誌を正しくお届けするために、転職・転居などで個人情報に変更のあった方は、suido@jsidre.or.jpまでご連絡ください。また、学会ホームページの会員専用サイトからも会員登録情報の確認および更新手続きを行うことができます。

なお、学会誌を職場等で連絡委員を通じてお受取りの方は、連絡委員にその旨、お申し出ください。

農業農村工学会行事の計画

農業農村工学会行事について、下表のように計画しています。ふるって参加くださるよう、お待ちしております。

(P)のマークは、技術者継続教育機構の認定プログラムとして認定されたもの、および認定申請中のものを表しています。

開催日	主催	行事名	テーマ	開催場所	掲載号
2019年8月 27日	創立90周年記念 式典実行委員会	創立90周年記念式典	—	東京都	—
2019年9月 4～6日	大会運営委員会	2019年度（第68回）農業農村工学会 大会講演会 (P)	—	東京都	86巻12号 87巻1,4号
2019年11月 14, 15日	九州沖縄支部	2019年度支部大会 (P)	—	大分市	87巻4号
2019年11月 27, 28日	京都支部	第76回支部研究発表会 (P)	—	和歌山市	87巻4号

第87巻第5号予定

展望：香山泰久

小特集：常態化する災害とリスクマネジメント

報文：震災を契機とした地域交流団体における長期的活動要因：友野 望ほか

報文：中山間地域のため池決壊氾濫解析でのアンダーパス表現：小嶋 創ほか

報文：平成30年7月豪雨による愛媛県宇和島市の被災状況と農業用ため池の利活用および農業関連復興復旧事業について：安瀬地一作ほか

報文：農業用排水機場の耐水化対策のための事例検討：関島建志ほか

報文：減災対策を目的としたため池の洪水流出モデル：吉迫 宏ほか

報文：斜面崩壊に起因した濁水発生に伴う農業取水のリスク管理：田中健二ほか

報文：平成26年8月豪雨時におけるため池への土砂流入量の推定：正田大輔ほか

技術レポート

北海道支部：てしおがわ剣和地区での開水路補修事例：高岡 潤ほか

東北支部：中山間地域の営農プラン実現に向けた水田畑地化事例：保坂 学ほか

関東支部：国道6号横断工事におけるボックス推進工法の施工事例：遠藤丈大

京都支部：乙川頭首工におけるアユの遡上調査：高月 翼ほか

中国四国支部：草刈り労力削減を図るための圃場整備手法：米山 浩ほか

九州沖縄支部：斜壁型貯水池の漏水補修対策：亘保 剛

2019年度農業農村工学会大会講演会の参加申込みについて

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



2019年度農業農村工学会大会講演会は、2019年9月4日(水)～9月6日(金)の3日間、東京農工大学府中キャンパス(東京都府中市)で開催されます。本報では開催要領、参加申込みなどについてお知らせします。

参加登録(事前登録)は、2019年6月1日から7月31日までです。

会場設備や発表プログラムの詳細等については本誌7月号(Vol.87/No.7)でお知らせします。

なお、講演発表を申し込まれた方も、別途、参加の申込みが必要です。

1. 開催要領

(1) 開会式典および学会賞表彰式：

9月4日(水) 13:30～

会場 東京農工大学府中キャンパス 本館講堂
(遠隔会場：連合農学研究棟第二会議室)

(2) 交流会：9月4日(水) 18:00～

会場 ルミエール府中 1階
コンベンションホール飛鳥
(東京都府中市府中町2-24)

(3) 講演会：9月4日(水)、5日(木)、6日(金)

会場 東京農工大学府中キャンパス
第一講義棟、二号館、一号館

(4) 現地研修会：なし

開会式および交流会の開始時間についてはプログラムの都合により多少前後する場合があります。会場の詳細・プログラムとともに本誌7月号に掲載します。

2. 申込方法

2019年度農業農村工学会大会専用ホームページ(2019年6月1日～7月31日)から参加登録(事前登録)をしてください。

い。8月1日以降は当日登録(10,000円)のみとなります。このホームページは農業農村工学会のホームページからもリンクされます。ホームページによる登録ができず、その他の方法での申込みを希望する場合は、「8. (1) 参加申込みに関する問合せ」までご連絡ください。

3. 参加費用

(1) 大会参加費用と内容

区分	事前登録(7/31まで)	当日登録
一般	8,000円	10,000円
院生	3,000円	5,000円

ただし学部学生(4年生以下)は大ICT展示会など90周年記念事業があり、企業と学生の交流を促すため、参加費用は発表の有無に関わらず無料としますが、参加申込みは必要です。

キャンセルの場合、8月1日以降は50%、9月3日以降は100%のキャンセル料が発生します。

(2) 交流会参加費：一般 7,000円、院生・学生 3,000円

4. 講演要旨集について

USB版(またはCD-ROM版)講演要旨集は参加者全員にお渡しいたします。USBまたはCD-ROMのどちらかを選択してください。事前の送付を希望する場合は、ホームページでの参加登録時にお申し込みください。ただし、事前送付は事前登録期間(7月31日まで)にお申込みいただいた場合のみの対応となります。

なお、これらの講演要旨集とは別に、プログラム、学会賞受賞者紹介、全講演・ポスター発表の200字要旨などを収録した大会概要集を、大会当日受付にて参加者全員にお渡しします。

当日申込みの要旨集はCD-ROM版のみのお渡しとなります。

5. 昼 食

昼食やお弁当の予約、手配はいたしません。会場近くの飲食店や大学の食堂などをご利用ください。

6. 宿泊施設・航空券などの斡旋

宿泊施設、航空券、鉄道各社の手配については斡旋しません。あらかじめご了承ください。

7. 会場までの交通案内

東京農工大学府中キャンパスまでのアクセスにつきましては、次のウェブサイトをご参照ください。

東京農工大学

<https://www.tuat.ac.jp/outline/overview/access/>

東京農工大学農学部・農学府

https://www.tuat.ac.jp/outline/overview/access/fuchu/campus_map/

8. 問合せ先

(1) 参加申込みに関する問合せ

(株)近畿日本ツーリストコーポレートビジネス
 トラベルサービスセンター東日本
 「農業農村工学会 2019 年度大会講演会」係
 〒160-0023 東京都新宿区西新宿 8-14-24
 西新宿 KF ビル 3 階

TEL : 0570-064-205 FAX : 03-6730-3230

(2) 大会全般に関する問合せ

2019 年度農業農村工学会大会事務局 加藤 亮
 〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学大学院農学研究院

電話 : 042-367-5757 FAX : 042-367-5757

E-mail : taskkato@cc.tuat.ac.jp

9. 大会実行委員会

委員長 向後雄二

東京農工大学大学院農学研究院

2019 年度農業農村工学会大会講演会（東京大会）の企業展示および広告掲載申込みについて

2019 年 9 月 4 日（水）、5 日（木）、6 日（金）の 3 日間、東京農工大学府中キャンパス（東京都府中市）で開催されます 2019 年度農業農村工学会大会講演会において、農業農村工学 大 ICT 展示会および一般の企業展示を行います。一般の展示を希望される企業は、下記要領によりお申し込みください。なお、農業農村工学 大 ICT 展示会の参加申込みは、すでに終了しており、参加企業については詳細を別途ご連絡します。

1. 企業展示（展示会場）

東京農工大学府中キャンパス 農学部 2 号館、農学部第一講義棟

※具体的な場所や条件はお問い合わせください。

2. 広告掲載

大会講演会概要集に掲載（A4 判モノクロ印刷）

※概要集は大会参加者全員に配布

3. 出展料

- ① 広告 1 ページ 60,000 円
- ② 広告 1/2 ページ 30,000 円
- ③ 企業展示（屋内） 80,000 円
- ④ 広告 1 ページ+企業展示（屋内） 120,000 円
- ⑤ 広告 1/2 ページ+企業展示（屋内） 100,000 円

4. 申込方法

(1) 申込用紙の送付 所定の申込用紙（学会ホームページの「事務局からのお知らせ」の農業農村工学会大会講演会のページ（<http://www.jsidre.or.jp/zenkokutaikai/>）に掲載）、企業展示の場合は、(2) に示す展示概要（任意様式）を事務局に送付（郵送、E-mail 等）

その後の手順は以下のとおりです。

- a (事務局) 申込み受付後、貴社へ連絡
- b (貴社) 広告原稿の送付（広告の場合）、資料用原稿の送付（企業展示の場合）
- c (事務局) 請求書の発送
大会講演会概要集の発送（広告の場合）、
企業展示資料の発送（企業展示の場合）
- d (貴社) 振込み
- e (事務局) 領収書発送

(2) 展示概要 展示する内容および必要物品等（要電源、机、イス等）、希望事項等を任意様式で作成・提出してください。基準面積は幅 1.8 m×奥行き 1.5 m（屋内）です。

(3) 申込期限 2019 年 6 月 28 日（金）まで

(4) 振込先

・金融機関：ゆうちょ銀行

・店 名：〇一八

・店 番：018

・預金種目：普通預金

・口座番号：8608782

・口座名義：平成 31 年度農業農村工学会大会実行委員会

(5) 申込み・問合せ先

2019 年度農業農村工学会大会講演会事務局

斎藤広隆

〒183-8509 東京都府中市幸町 3-5-8

東京農工大学大学院農学研究院

E-mail : hiros@cc.tuat.ac.jp

（問合せは、E-mail でお願いします。）

2019年度「研究グループ」への助成希望者募集について

「研究グループ」の育成を目的とし、下記取扱い内規によって研究助成を行います。

助成金額は原則1件20万円程度、3件程度です。

本年度の申請締切は、2019年6月28日(金)ですので、助成金を希望される方は期限までに、所定の様式(学会ホームページ参照)で研究委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「研究グループ」への助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「研究グループ」への助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4.助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会は助成金申請のあった「研究グループ」につき、その可否を認定し、学会長に報告する。
3. 助成：研究委員会は認定した「研究グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、しかもその研究分野が現在立ち遅れており、それを研究することが学会の研究活動の発展に対して新しい芽に

なりうること。

- (ロ) 「研究グループ」の構成は本学会員を主とし、構成員は自らその研究に携わる分担者であること。
 - (ハ) 「研究グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。
 - (ニ) 「研究グループ」のすべての構成員の年齢は、助成金申請締切日に40歳未満であること。
 - (ホ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。
5. 活動報告：助成金を受領した「研究グループ」は助成金受領後1年以内に活動報告を下記注意書き事項に留意し作成し、研究委員会に提出すること。
 - 注1) 研究経過報告書の執筆に当たり、農業農村工学会誌原稿執筆の手引きを参考とし、学会誌刷上がり1~2ページに収まるようにまとめること。
 - 注2) 「研究グループ」からの研究経過報告は研究委員会で承認の上、学会誌に掲載する。
 - また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。
 6. その他：申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

2019年度「戦略的研究申請支援」の助成希望者募集について

農業農村工学分野における戦略的研究の推進を目的とし、下記取扱い内規によって、競争的研究資金獲得をめざす研究申請書作成グループに助成を行います。助成総額は、60万円程度(原則1件20万円以内)です。

本年度の申請締切は2019年9月13日(金)です。助成金を希望される方は期限までに、必要事項を記入した申請様式(末尾参照)で研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あてにお申し込み下さい。

試験研究機関、行政、大学、民間等からの応募を歓迎いたします。

「戦略的研究申請支援」の助成金取扱い内規

1. 申請：学会員は所定の申請用紙に必要事項を記入の上、「戦略的研究申請支援」の助成金の申請ができる。なお、申請者の資格は、後述の「4. 助成対象」に示すとおりとする。
2. 認定：研究委員会戦略的研究推進小委員会は、「研究申請書作成グループ」の申請内容(申請の意義、準備の状

況、将来の展望など)を検討して、助成するグループと金額を決定する。なお、この決定内容は学会長に報告する。

3. 助成：研究委員会戦略的研究推進小委員会は認定した「研究申請書作成グループ」に対し、「研究連絡費」を助成する。ただし、その助成は原則として1年とする。可否の認定に当たっては、科学研究費補助金以外の競争的資金に応募を予定しているグループを優先する。
4. 助成対象：申請できる条件(助成対象)は次のとおりとする。
 - (イ) 具体的な研究テーマをもち、それを研究することが戦略的な意味で農業農村工学の意義と役割を対外的に示すことに貢献しうること。
 - (ロ) 「研究申請書作成グループ」には代表者(本学会員)をおき、構成員(本学会員以外も可)は原則として3名以上、それらの所属する機関が2つ以上あること。

(ハ) 代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)であること。

5. 活動報告: 助成金を受領した「研究申請書作成グループ」は、助成金受領後1年以内に活動報告として、作成した申請書とその提出および審査の経過を、戦略的研究推進小委員会に提出すること。提出された活動報告は戦略的研究推進小委員会のデータベースに登録され、必要に応じて学会の研究申請支援活動に役立てられる。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. その他: 申告書の内容について、研究委員会で審議した内容を採否通知に同封します。

「戦略的研究申請支援」の助成金申請様式

締切: 2019年9月13日(金)

申込先: 研究委員会戦略的研究推進小委員会委員長あて

E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

必要記載事項:

- (1) WG名(または部会名) (2) 代表者名・所属
- (3) 参画者名・所属 (4) 研究テーマ名(仮)
- (5) 研究の目的と内容(500字程度)
- (6) 研究資金申請応募先(予定)

2019年度農業農村工学会学術基金援助希望者募集について(再)

農業農村工学会では、平成3年度に学術基金制度を設け、毎年援助事業を実施しております。

2019年度は、規程第4条(1)の「特定の分野及び学術的分野に関する調査・研究の推進」、(2)の「農業農村工学の国際交流の推進」、(3)の「若手研究者の育成」の援助を実施いたします。

援助を希望される方は、学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/format/>)より申請書をダウンロードして、E-mailで学会事務局あてお申し込みください。

記

1. 援助の対象

農業農村工学会の会員(学生会員を含む)、または会員により構成されるグループで代表者は論文集またはPWE誌の購読者(援助決定後の購読も可)

2. 援助方針

- (1) 農業農村工学に関する特定の分野および学術的分野の調査・研究の推進に寄与と思われる研究について援助する。
- (2) 2019年度中(2019年4月から2020年3月)に海外で開催される国際学術会議への出席費用の一部を援助する。

る。なお、自ら研究発表等を行う若手会員とする。

ただし、発表が国際会議の主催者から受理されていなくても、申請は受け付ける。

この場合、援助の可否については受理を条件として決定を行う。

- (3) 若手研究者の研究に対して援助する。

3. 1件当たりの援助金の目安

1件15万円程度とする。

4. 申請締切 2019年4月12日(金)

5. 報告の義務

援助を受けた者は、調査・研究、または会議の報告書を提出する。その原稿は学会誌に掲載される。

また、得られた成果を論文集またはPWE誌に積極的に投稿すること。

6. 申込み・問合せ

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4 農業土木会館3階
(公社)農業農村工学会 学術基金運営委員会
TEL: 03-3436-3418 FAX: 03-3435-8494
E-mail: new-suido@jsidre.or.jp

「農業農村工学会学術基金」への募金のお願い

農業農村工学会は、農業農村工学の学術・技術の発展を通じて、わが国農業の近代化に大きく貢献できたものと自負しています。しかし、昨今の日本農業はかつてない厳しい環境におかれ、農業農村工学の役割も従来に増して一層重要なものとなり、東南アジアをはじめとして全世界的な展開が望まれる状況になっています。

そのためには、若い世代の育成、新たな技術の開発や国際交流の進展が図られなければなりません。学会は、これら諸活動に資するものとして、平成3年4月に学術基金を創設し、これに上野賞基金や富士岡研究奨励基金を統合し、さらに法人・個人有志からの拠出金等をもってこの基金に充てることとしてお

ります。

つきましては、会員各位からの多くのご支援をいただきたく、お願い申し上げます。

なお、この学術基金は今後、学生会員のインターンシップの助成にも対象を拡げる予定です。

個人会員一口 5,000円(何口でも可)

法人会員一口 50,000円(何口でも可)

送金方法 銀行振込および郵便振替でお願いいたします。

銀行: みずほ銀行新橋支店

普通預金 No.1569058

口座名 (社)農業農村工学会学術基金

消費税率の改定予定に伴う定価表示の変更について

2019年10月1日から消費税率の引上げが予定されているため、定期刊行物の購読料および図書の定価表示を2019年4月から下記のように外税表示に変更いたします。会員の皆様のご理解をお願い申し上げます。なお、PWE誌は、別途購読料を値下げいたします。

●定期刊行物（学会誌・論文集）

学会誌 1冊：本体1,115円＋税
 非会員年間購読料 16,848円
 (1,204円(8%時)＋200円(送料)の12ヵ月分)
 論文集 1冊：本体7,570円＋税
 年間購読料
 会員(名誉, 正, 賛助) 7,570円＋税

学生会員 4,000円＋税
 非会員年間購読料(年2回冊子発行)
 16,750円(8%時)
 (1冊の定価(8,175円, 8%時)
 ＋200円(送料)の2冊分)

●出版物の定価表示

図書は、「本体価格＋税」に統一する。本体価格は、現行価格(消費税8%含む)を1.08で割り戻し、円単位で四捨五入して10円単位とする。
 例：設計ダム
 変更前定価表示 19,543円(消費税8%含む)
 変更後定価表示 本体18,100円＋税

PWE誌年間購読料の値下げについて

オンラインジャーナル Paddy and Water Environment (PWE誌)について、2018年度の学会と発行元のSpringer社との契約変更、および今後の購読者数などの動向や会員サービスの向上などを踏まえ、2019年4月から下記のとおり年間購読料を値下げいたします。

PWE誌年間購読料

	値下げ後	値下げ前
正会員・名誉会員	9,000円＋税 (9,720円, 消費税8%時)	12,343円 (消費税8%含む)
学生会員	4,500円＋税 (4,860円, 消費税8%時)	8,743円 (消費税8%含む)

会費等の「振込手数料」のご送金者(会員様等)負担について

ゆうちょ銀行の手数料値上げに伴い、従来学会負担としていた「振込手数料」について、2019年4月1日からすべての「振込手数料」をご送金者(会員様等)の負担とさせていただきます。皆様には、ご負担をおかけしますが、ご理解をお願いいた

します。

【主な対象となる振込手数料】

- ① 会費
- ② CPD 利用料

「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格に関するお知らせ(再)

2019年6月に「農業土木標準用語事典」の改訂版が出版される予定です。それに伴い、現在、発行されている「農業土木標準用語事典 改訂5版」の会員価格を割引きして特別価格で販売中です。

なお、非会員の方はこれまでどおり、定価の販売となります。

	会員価格	非会員価格
定 価	3,805円	4,628円
特別価格	一般会員 3,000円 学生会員 2,500円	—

学生会員入会時の特典について

農業農村工学会では、従来から行っていた入会時特典のハンドブック3点セット(ハンドブック＋用語事典＋初年度会費)に加えて、次の入会時特典を新たに設けることといたしました。これから学生会員として入会をお考えの学生の皆様、是非ご

利用ください。

- ①ハンドブック3点セット
(ハンドブック＋用語事典＋初年度会費)
学部生 17,000円(15,750円)

大学院生 19,500 円 (16,750 円)

②必携3点セット

(必携+用語事典+初年度会費)

学部生 7,000 円 (5,750 円)

大学院生 10,000 円 (7,250 円)

③2点セット

(用語事典+初年度会費)

学部生 5,000 円 (3,750 円)

大学院生 8,000 円 (5,250 円)

() 内の金額は、10月1日以降入会の場合。

なお、用語事典を購入した学生会員に限り、用語事典の内容をスマートフォンなどで閲覧可能なサービスを提供いたします。

ハンドブック：改訂七版農業農村工学ハンドブック

必携：資格試験のための農業農村工学必携（第二版）

用語事典：改訂5版農業土木標準用語事典

問合せ先 (公社)農業農村工学会 図書係

E-mail : suido@jsidre.or.jp

今年もやります！ こりゃ映像！2019—ミニ動画コンテスト—（再）

農業農村工学会広報委員会では、昨年に引き続き、下記のとおり、農業農村工学を紹介する動画を広く募集します。

1. 応募締切 2019年7月31日(水)17時
2. 動画の制限時間 60秒以内
3. 2019年度のテーマ (未定)
4. 応募資格 なし(どなたでも応募できます)
5. 応募方法 動画をYouTubeへ指定されたタブを付けてアップロードする。
6. 審査方法 広報委員会動画ワーキングチームで審議の上、最優秀賞1作品、優秀賞2作品を決定する。
7. 賞金 最優秀賞(1作品)2万円
優秀賞(2作品)各1万円
8. アップロード方法
 - ① 動画を作成する。
 - ② YouTubeにアップロードする(9.参考資料を参照)。
 - ③ タグに3つのワード(jsidre2019, こりゃ映像, (テーマ未定))を入れる。
 - ④ カテゴリに「科学と技術」を選ぶ。
 - ⑤ 下記の情報を広報委員会動画WT(new-suido@jsidre.or.jp)宛にメールで送る。
入賞賞金をお渡しするのに必要な情報(氏名, 年齢, 性別, 所属, 連絡先, YouTube動画のURL)

9. 参考資料

- ・YouTubeにPCから動画をアップロードする方法
<http://douga-tec.com/?p=4974>
 - ・スマホからYouTubeに動画をアップロードするには—Android入門
<http://android.f-tools.net/Q-and-A/YouTube-Upload.html>
 - ・【2017年版】Youtube(ユーチューブ)に動画をアップロードする方法
<https://www.youtube.com/watch?v=O1slFYR0KIY>
 - ・動画作成のヒント(超かんたん動画投稿法)
<https://www.youtube.com/watch?v=eq5PUALLukk>
- <参考>こりゃ映像2018 結果(テーマ:私のかんがい施設遺産)
- 最優秀賞:万葉のゆたかな水の里 下八ヶ佐加野用水
富山県土地改良事業団体連合会 竹沢良治
高岡市土地改良区 北川 孝
<https://www.youtube.com/watch?v=b2NvJysXF0o>
- 優秀賞:田の下の力持ち, 府中用水
東京農工大学大学院 国際環境農学専攻 岩本智寛
https://www.youtube.com/watch?v=fy0NadQy_gQ

「水土の知(農業農村工学会誌)」 読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会誌企画・編集委員会では、読者への感謝の意を表すべく、2018年4月から2019年3月までの一年間に閲読にご協力いただきました方々のお名前(五十音順・敬称略)を記し、ご貢献の証とさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(2019年3月1日現在)

合 崎 英 男	石 井 将 幸	伊 藤 良 栄	岩 間 憲 治	大 貫 晴 夫
栗 生 田 忠 雄	井 関 律 子	井 上 一 哉	内 村 求	岡 澤 宏
安 中 武 幸	一 恩 英 二	井 上 京	大 西 健 夫	岡 島 賢 治
石 井 敦	伊 藤 健 吾	岩 田 幸 良	大 西 尚 樹	奥 野 林 太 郎

柏木 淳一	小林 範之	杉山 行男	長野 宇規	皆川 明子
唐崎 卓也	近藤 雅秋	鈴木 翔	中村 和正	峯岸 正人
川本 治	齋藤 邦人	清野 修	中村 公人	宗岡 寿美
北村 浩二	坂田 寧代	長野 峻介	西田 和弘	村松 陸宏
木山 正一	佐藤 周之	塚本 康貴	原田 正明	森 淳
工藤 庸介	佐藤 健	富森 淳	廣瀬 裕一	森 丈久
久保寺 貴彦	重岡 徹	豊田 裕道	深田 耕太郎	森井 秀之
熊谷 徹	凌 祥之	内藤 久仁彦	藤田 覚	藪田 徳章
久米 崇	篠原 亮二	中桐 貴生	堀田 昇克	山下 良平
黒田 久雄	柴田 俊文	中島 正裕	松島 文也	
郷古 雅春	申 文浩	中園 健文	溝口 勝	

「農業農村工学論文集」査読者の氏名公表とご協力のお礼

農業農村工学会論文集企画・編集委員会では、査読者への感謝の意を表すべく、2018年4月から2019年3月までの一年間に査読にご協力いただきました方々のお名前（五十音順・敬称略）を記し、ご貢献の証とさせていただきます。

なお、氏名の公表を辞退されている方もおられることを申し添えます。

今後とも、ご支援ご協力を賜りますよう、お願い申し上げます。

(2019年3月1日現在)

浅野 勇	柿野 亘	西前 出	田中 勉	兵頭 正浩
東 信行	柏木 淳一	斎藤 広隆	田中丸 治哉	平 瑞樹
安瀬 地一作	加藤 亮	酒井 一人	谷口 智之	平舘 俊太郎
荒木 進歩	加藤 千尋	坂田 賢	椿 涼太	平松 研
飯山 一平	金山 素平	坂田 寧代	徳本 家康	広田 純一
石井 敦	唐崎 卓也	佐藤 邦明	中桐 貴生	福田 信二
石井 将幸	川邊 翔平	佐藤 周之	長坂 貞郎	藤川 智紀
石神 暁郎	冠 秀昭	佐藤 靖彦	中島 正裕	藤原 鉄朗
石黒 覚	北辻 政文	澤田 豊	中野 恵子	古屋 弘
石黒 宗秀	木全 卓	重岡 徹	中村 和正	星野 敏
泉 明良	木村 匡臣	柴田 俊文	中村 好男	本城 勇介
泉 智揮	桐 博英	志村 もと子	永吉 武志	前島 勇治
泉 完	九鬼 康彰	白旗 克志	西田 和弘	前田 健一
伊藤 健吾	工藤 亮治	杉浦 未希子	西原 是良	前田 滋哉
伊藤 祐二	久保 成隆	鈴木 純	西村 拓	前田 守弘
井上 一哉	栗田 英治	鈴木 哲也	西村 直正	松井 宏之
井上 敬資	黒田 久雄	鈴木 正貴	西脇 淳子	松島 健一
江口 定夫	小出水 規行	周藤 将司	登尾 浩助	丸居 篤
遠藤 和子	黄 琬恵	宗村 広昭	橋本 洋平	嶺田 拓也
王 劍宏	向後 雄二	高瀬 恵次	服部 俊宏	村松 真
大久保 天	郷古 雅春	高松 利恵子	濱 武英	初井 和朗
大澤 和敏	郡山 益実	竹下 伸一	濱田 康治	森 淳
大竹 雄	小島 信彦	竹村 武士	濱本 昌一郎	森 丈久
岡島 賢治	越山 直子	武山 絵美	原田 耕司	森 洋
緒方 英彦	近藤 文義	多炭 雅博	原田 昌佳	森 充広
小野 洋	近藤 美麻	多田 明夫	治多 伸介	森 也寸志

守田 秀則	山下 正	吉岡 秀和	吉田 修一郎
守山 拓弥	山下 裕作	吉川 夏樹	吉永 育生
安元 純	山本 勝利	吉迫 宏	脇山 恭行
山路 永司	山本 清仁	吉田 貢士	渡部 恵司

「CPD 技術者サポート票」無料ダウンロードサービスの開始について

農業農村工学会技術者継続教育機構では、技術者自身が CPD 登録期間中の「認定ポイント」、「取得ポイント」、「過年度の研鑽履歴のトレンドをグラフ化した情報」などを確認し、目指す専門分野の技術力向上や資格取得に向けて効率よく研鑽ができるよう、2019年3月18日から「CPD 技術者サポート票」

(Excel ファイル)の無料ダウンロードサービスを開始しました。ご利用手順などについては当機構ホームページの「お知らせ一覧」をご参照ください。

http://www.jsidre.or.jp/wordpress/wp-content/uploads/2019/03/CPD_engineersupport_190320.pdf

学会誌掲載報文等による CPD 通信教育の参加者募集 !!

農業農村工学会では、学会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者の方が CPD 単位を在宅のまま取得できる方法として、平成 17 年 10 月号から農業農村工学会誌「水土の知」誌上で「CPD 通信教育」を実施しています。学会員であり、かつ CPD 個人登録者は、どなたでも無料で参加することができ、通信教育分【ac】として年間最大 24 cpd を取得する大きなチャンスとなっています。この機会に、是非 CPD 通信教育へご参加ください。

なお、解答内容については技術者倫理に則り、自らの責任で送信してください。

1. 参加資格

農業農村工学会の個人会員であり、かつ技術者継続教育機構の CPD 個人登録者

2. 出題内容と出題方法

3カ月前に発行された農業農村工学会誌に掲載された報文等の事実的内容から、択一式で毎月 10 問を出題

3. 解答方法

Web 画面に正解と思う番号を入力し、送信（事前に Web 利用登録が必要）

4. 解答期限

問題掲載月の月から翌月末日まで

(例：学会誌 4 月号掲載の問題は 5 月末日が解答期限)

5. 取得できる CPD 単位

10 問正解で 2 cpd を、7~9 問正解で 1.5 cpd を自動登録（正解数 6 問以下の場合 CPD 単位の付与はされません。）

6. 自動登録の時期

取得した CPD 単位は、解答期限最終日の翌月初旬に自動登録されます。

2020 年の学会誌表紙写真の募集

学会誌企画・編集委員会では、2020 年発行の学会誌も引き続いて学会員の皆さまからの写真などを基本に表紙を飾ることとします。以下の趣旨を参考に魅力ある写真などをふるってご応募ください。

趣 旨

現代に入り農業の近代化のために、農業農村工学の粋を集めた多くの農業（水利）施設が造成され、農業や農村の基盤を支えています。そして、近年、それらも更新や機能保全を重ね施設の様態も変化してきています。さらに、日本の農業農村工学の成果は技術移転により、海外の多くの国々で現地適用され、それらの国々の食料供給と農業生産の基盤を支えています。農業農村の現場で活躍される技術者、現場での調査研究に邁進されている研究者・学生の皆さま、国内外の農村地域における農業施設・構造物、特に新たに完成した施設や施工中の現場事例

および国外においては日本の関連技術が適用された事例などの匠（造形美、用の美、融合の美）とそれを含む景観を広く学会員にご紹介ください。

記

1. テーマ

「農業（水利）施設・構造物とそれらに支えられた農地・地域の景観など：現代の最新技術と苦労が垣間見える造形美・用の美など」

2. 対象巻号 学会誌第 88 巻（2020 年 1~12 月号）

3. 写真などの種類

応募写真はデジタル、フィルムを問わず六つ切り以上四つ切り以下のサイズにプリントしたものとします。（プリントは「写真用紙—フォトペーパー／滑面タイプ」を使用してください。四つ切りワイド、A4 サイズも含まれます）。なお、六つ切り

は 203×254 mm, 四つ切りは 254×305 mm, 同ワイドは 254×356 mm, A4 は 210×297 mm です。カラー、モノクロは問いません。採用となった写真についてはデジタル写真の場合に限って画像データを送っていただきます。一点につき 5 MB 以下とし、これを超えるものは CD または DVD にて送ってください。形式は JPEG のみに限定します。

4. 枚数

応募写真に制限はありませんが、未発表のものに限ります。

5. 締切

春季 2019年6月30日
夏季 2019年9月30日

※応募時、過去1年以内に撮影したものに限りま

6. 審査

審査委員会(編集委員と写真家)で選考します。

7. 結果発表

学会誌第88巻第1号で採用作品と掲載号を発表し、採用作品は2020年度大会講演会会場内でパネル展示します。

8. 被写体の説明文または「Cover History (表紙写真由来)」の執筆および写真使用料について

採用作品の応募者には、被写体の説明文(500字程度)をご執筆いただきます。また、ご希望の応募者には、撮影の動機、被写体にひかれた点、被写体の説明などを、学会誌掲載の「Cover History (表紙写真由来)」にご執筆いただくことができます。ご執筆の詳細は、採用決定時に応募者に直接お知らせします。また、採用作品には規定の写真使用料(1点につき1万円)をお支払いします。なお、すべての応募作品が不採用と

なった応募者には記念品をお送りします。

9. 使用権・著作権

採用作品の使用権および著作権は(公社)農業農村工学会に属します。

10. 注意点

審査は上記の趣旨を十分理解されている写真であるか、表紙写真の質として耐えうるかということを重視します。具体的には、農業施設・構造物の形状や機能が、その写真から十分に読みとれること(花などの情緒物に埋没しないこと)が採用の条件となります。

また、被写体の肖像権や権利関係については許可等、十分ご注意ください。

11. 応募方法および応募先

学会ホームページより、応募票をダウンロードし、タイトル、郵便番号、住所、氏名、勤務先、電話番号、E-mail アドレス、写真のテーマ、撮影場所、撮影年月日、対象物の固有名称(固有名称)、対象物をめぐる歴史的背景等の説明を記入し、応募写真の裏面に貼付してお送りください。

なお、原則として、応募写真は返却いたしません。

〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会「表紙写真公募」係

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

「水土の知(農業農村工学会誌)」への投稿お待ちしております!

自主投稿原稿の募集

小特集以外の自主投稿も歓迎いたします。投稿の際には、農業農村工学会ホームページ(<http://www.jsidre.or.jp/>)

journal/)に掲載の「農業農村工学会誌投稿要項」,「農業農村工学会誌原稿執筆の手引き」を熟読の上、ご投稿ください。

学会誌第87巻の小特集のテーマ

小 特 集 テ ー マ		要 旨 締 切 (A4判 1,500字以内)
第87巻第5号	常態化する大規模災害とリスクマネジメント(仮)	終了
6号	レジリエンス研究と農業農村工学(仮)	終了
7号	大会特集号(関東支部)	—
8号	農村地域における生活環境整備の現状と今後の対応策(仮)	終了
9号	農地集積8割の達成後、農村はどのように変化していくのか(仮)	4月20日
10号	世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化(仮)	5月20日

今後取り上げてほしい小特集のテーマについても、広く募集しておりますので、学会誌企画・編集委員会あてにお寄せください。なお、小特集テーマが仮題となっているものは、予告なく変更することがございます。

採用された原稿の分量は、刷上り4ページとなっておりますので、ご執筆の際には厳守いただきますよう、お願いいたしま

す。

送付先 〒105-0004 東京都港区新橋5-34-4

(公社)農業農村工学会

農業農村工学会誌企画・編集委員会あて

TEL : 03-3436-3418 FAX : 03-3435-8494

E-mail : henshu@jsidre.or.jp

第 87 卷第 9 号テーマ「農地集積 8 割の達成後、農村はどのように変化していくのか」(仮)

国は新たな土地改良長期計画(平成 28~32(2020)年度)に基づき、2023 年までに担い手が利用する農地面積が全農地面積の 8 割を占める政策目標を掲げ、農地集積を推進しています。こうした中で、農地中間管理機構が創設され 5 年経過し、同機構を活用した集積協力金交付事業や機構関連農地整備事業等のさまざまな事業により、すでに 5 割以上の農地が担い手へと集積されています。

しかし、農地集積の推進とともに離農が進み、土地持ち非農家の増加と農家の高齢化により、農地や農業用水といった地域資源の維持管理作業への参加者が減少しています。このため、とりわけ水管理や畦畔の草刈りなどの作業にかかる担い手への負担が過度に集中し、労力・時間的な制約から、一定以上の農

地の集積・集約化のペースが減速しています。

他方、このような制約を経営の複合化、多角化、他業種との連携などによりブレイクスルーし、100 ha を超えて経営規模を拡大する農業経営体が、平地に限らず中山間においても出現しています。同時に、このような地域では水管理や生産管理のあり方が従来と異なっており、農業経営体とムラ社会の関わり方についても、大きな変化が生じていると考えられます。

本小特集では、このように大きく農地集積が進んだ地域において、農業の構造的な変化に対応するための基盤整備や基盤データを活用した情報アプリなどを利用した営農の取組み、また地域社会の維持にかかる課題やその対策などについて、広く報文を募集します。

第 87 卷第 10 号テーマ「世界かんがい施設遺産や世界農業遺産による農村の活性化」(仮)

世界農業遺産は、世界的に重要かつ伝統的な農林水産業を営む地域を国際連合食糧農業機関 (FAO) が認定する制度です。また、世界かんがい施設遺産は国際かんがい排水委員会による、歴史的・技術的・社会的価値のある灌漑施設を登録・表彰するためのものです。

これらに認定・登録された施設は、新聞などのマスメディアに取り上げられることが多いため、これらの制度の存在は広く知られていると思います。一方、農林水産省のウェブサイトによると、たとえば世界かんがい施設遺産では「登録により、かんがい施設の持続的な活用・保全方法の蓄積、研究者・一般市民への教育機会の提供、かんがい施設の維持管理に関する意識向上に寄与するとともに、かんがい施設を核とした地域づくりに活用されることが期待されています」とありますが、具体的にどのような取組みが行われているのか、これらを実現する際にどのような苦労や問題点があるのか、といったことについてはあまり認知されていないように思います。

世界農業遺産については国内で 11 件の登録があり、わが国は中国に次いで 2 番目に認定地域が多い国です。世界かんがい

施設遺産に至っては全 74 件の登録のうち国内での登録件数は 35 件もあります。これは、日本が雨の多い地域で昔から水を上手に使うことで豊かな国土を維持してきた先人たちの「遺産」が豊富にあることを意味しています。これらの優れた農業システムや灌漑施設を有効に使うことで、地域の活性化や観光などの経済的側面のほか、教育や地域住民へのアピールを通して地域の中での農業の役割や地域愛を育むなど、地域おこしに役立つはずです。

そこで本小特集では、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産を活用した地域おこしの取組みやその効果の検証、実施の際の苦労などについて、現場で実際に取り組みされている実務者の方々やコーディネートされている行政の方々、あるいはそこで研究されているの方々などの幅広い方々からの報文を募集します。さらに、これらの登録・認証制度を利用した地域おこしの可能性や地域のアピールの方法など、実際の取組みだけにとどまらず、世界かんがい施設遺産や世界農業遺産に関連する報文を広く募集します。

国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」への投稿のお願いと 2018 年 7 月から 2020 年 6 月までの編集事務局について

国際水田・水環境工学会 (International Society of Paddy and Water Environment Engineering : PAWEES) では、機関誌として国際ジャーナル「Paddy and Water Environment」を発行しています。

本ジャーナルは、モンスーンアジア諸国の水田農業工学に関わる研究論文、技術論文が多数掲載されていますので、研究者のみならず、各種事業に携わる技術者にとっても貴重な学術情報誌です。また、2017 年のインパクトファクター (IF) は過去最高の 1.379 となり、国際ジャーナル誌としての位置づけがますます向上しています。

水田農業における土地、水、施設および環境に関する科学と技術の発展への貢献を目的としており、掲載論文の分野は、次のように幅広い内容となっています。

- ① 灌漑 (水配分管理, 水収支, 灌漑施設, 栽培管理)
- ② 排水 (排水管理, 排水施設)
- ③ 土壌保全 (土壌改良, 土壌物理)
- ④ 水資源保全 (水源開発, 水文)
- ⑤ 水田の多面的機能 (洪水調節, 地下水涵養など)
- ⑥ 生態系の保全 (水生, 陸生動植物の生態系)
- ⑦ 水利施設と減災・防災 (施設管理, 地すべり, 気候変動,

災害防止など)

- ⑧ 地域計画 (農村計画, 土地利用計画など)
- ⑨ バイオ環境システム (水田農業と水環境, 土壌環境, 気象環境)
- ⑩ 水田の多目的利用 (田畑転換, 施設園芸)
- ⑪ 農業政策 (農村振興, 条件不利地の支援策など)

また, 世界 14 カ国から Editor (18 名) を選出することにより, 国際ジャーナルとしての質を高める編集体制とし, さらに国際的な流通を考慮して, 国際出版社として著名な Springer 社からの刊行です。掲載論文は, Review, Article, Technical Report および Short Communication の 4 種類です。

一方, 2018 年 7 月から, 新たな編集体制をスタートさせました。詳細は以下のとおりです。

編集体制

- ・ Editor-in-Chief : Dr. Takao MASUMOTO (Japan)
Faculty of Bioresource Science, Akita Prefectural University, Akita, Japan
- ・ Editors 14 カ国から 19 名
- ・ Editorial Advisors 30 名
- ・ Chief Managing Editor
Dr. Kimihito NAKAMURA
Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
- ・ Managing Editors
Dr. Jin-Yong CHOI
Institute of Green-Bio Science and Technology, Seoul National University, Korea
- Dr. Inhong SONG
Department of Landscape Architecture and Rural Systems Engineering, Seoul National University, Korea
- Dr. Chihhao FAN
Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China
- Dr. Kuo-Wei LIAO

Department of Bioenvironmental Systems Engineering, National Taiwan University, Rep. of China

Dr. Hiroshi IKEURA

Rural Development Division, Japan International Research Center for Agricultural Science (JIRCAS), Japan

Dr. Andrew WHITAKER

Graduate School of Science and Technology, Niigata University, Japan

編集事務局 (2018 年 7 月から 2020 年 6 月まで)

・ Dr. Kimihito NAKAMURA

Graduate School of Agriculture, Kyoto University, Japan
Oiwake-cho, Kitashirakawa, Sakyo-ku, Kyoto 606-8502, JAPAN

TEL : + 81-75-753-6156

FAX : + 81-75-753-6476

E-mail : nakamura@kais.kyoto-u.ac.jp

投稿先 : オンライン投稿 (<http://pawe.edmgr.com/>) になります。

投稿資格 : 筆者が農業農村工学会員で PWE 誌の購読者であること。

投稿要領等 : <http://pawe.edmgr.com/> に詳細を記載しています。

発行スケジュール : 年 4 回 (オンラインジャーナル)

購読料 : 正会員・名誉会員 9,000 円 + 税

学生会員 (院生含む) 4,500 円 + 税

非会員の方は購読できません。購読を希望される方は, まず農業農村工学会にご入会の上, お申し込みください。

なお, オンラインジャーナルへの完全移行に伴い, 2016 年度からの購読はパスワードによる Web 上での閲覧になっています。冊子体の配布はありません。

申込先 : 農業農村工学会事務局 (suido@jsidre.or.jp) まで会員番号を明記の上, お申し込みください。

第 76 回京都支部研究発表会の開催について (第 1 報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 研究発表会

日時 2019 年 11 月 27 日 (水) 10 : 00 ~ 17 : 00

場所 受付・開会式, 表彰式・基調講演

和歌山県民文化会館

〒640-8269 和歌山県和歌山市小松原通 1-1

TEL : 073-436-1331 FAX : 073-436-1335

研究発表会・情報交換会

アパローム紀の国

〒640-8262 和歌山県和歌山市湊通丁北 2-1-2

TEL : 073-436-1200

2. 情報交換会

日時 2019 年 11 月 27 日 (水) 18 : 00 ~ 20 : 00

3. 現地研修会

日時 2019 年 11 月 28 日 (木) 9 : 00 ~ 16 : 00

4. 研究発表申込み

研究発表者は投稿原稿に先立ち, 6 月末日までに, 以下の情報を簡条書きにしたメールを下記の発表申込先 (三重大学・渡辺) にご送付ください (件名を「発表申込み」としてください)。

①表題 (仮題でも可), ②発表者名, 所属, 年齢, ③連名者名, 所属, 年齢, ④希望発表部門 (水理, 水文・気象, 土壌物理, 土質力学, 応用力学, 材料・施工, 施設管理・更新, 灌漑排水, 農地造成・整備・保全, 農村計画, 環境保全, 生態環境, 地震・

その他), ⑤発表者の連絡先電話番号, ⑥発表者のメールアドレス。

発表者要件は「発表者は学会員に限らない。ただし、連名者に少なくとも1名は学会員が含まれること」となっております。なお、投稿原稿に関する詳細な要領は6月号を参照してください。

5. 参加費 会 員：3,000円

非会員：4,500円

6. 発表申込先

〒514-8507 三重県津市栗真町屋町 1577

三重大学大学院生物資源学研究所共生環境学専攻 渡辺晋生

E-mail : kunio@bio.mie-u.ac.jp

TEL : 059-231-9583 FAX 059-231-9634

7. 申込期限

(1) 発表申込み 2019年6月末日

(2) 原稿締切 2019年7月末日

(3) 参加申込み 2019年8月末日

8. 問合せ先

和歌山県農林水産部農林水産政策局農業農村整備課
計画調整班 中西康仁

E-mail : nakanishi_y0021@pref.wakayama.lg.jp

TEL : 073-441-2951 FAX : 073-425-0287

2019年度九州沖縄支部大会の開催について(第1報)

技術者継続教育機構認定プログラム申請中



1. 期日および内容

- (1) 講演会：2019年11月14日(木)
オーラルセッション・ポスターセッション
- (2) シンポジウム：2019年11月14日(木)
テーマ未定
- (3) 講習会：2019年11月15日(金)
設計基準書等の解説
- (4) 現地見学会：2019年11月15日(金)
未定

2. 会 場

トキハ会館

大分市府内町 2-1-4

3. プログラムおよび申込方法等

第2報にて詳細をお知らせします。

全国各地から多数のご参加をお待ちしております。

4. 問合せ先

大分県農林水産部工事技術管理室 須藤

TEL : (代表) 097-536-1111 (内線 3534)

(直通) 097-506-3533

FAX : 097-506-1757

E-mail : suto-yuya@pref.oita.lg.jp

既刊の設計基準等

土地改良事業設計指針 「ため池整備」

農林水産省農村振興局整備部監修

平成27年5月 制定 平成27年10月 発行

A4判 261ページ 定価 (本体2,310円+税)

内 容

- 第1章 一般事項 趣旨／適用範囲／重要度区分の定義
／設計の基本事項／要改修の判定／設計の手
順／耐震性能の設定と照査手順
- 第2章 調 査 ため池調査／材料調査
- 第3章 設 計 ため池改修設計の考え方／設計洪水流
量／堤体の設計／洪水吐の設計／取水施設の
設計／緊急放流施設の設計／レベル2地震動
に対する耐震性能の照査／液状化の検討
- 第4章 施 工 施工計画／施工／施工管理

ため池整備用語集

計算例 貯留効果の計算例／プランケット計算例／洪水
吐の安定計算例／緊急放流施設の設計例

参考資料 堤体と地山高の関係について／表面遮水壁型
工法／池内堆積泥土の固化処理／ラビリンス堰の水利
設計手法／コスト縮減に向けた取組み及び新技術／環
境との調和に配慮した施工事例／ため池防災デー
タベースと防災面への応用／ため池盛土斜面の簡易な強
度調査方法(原位置せん断試験)／柔構造底樋設計の留
意点／耐震対策工